

悪魔

アダイ、ドルヂ、ダワザルが

私は建物の屋上に立っていた。冷たい風、  
苦しみの涙、すべての恐怖。そして少しの後  
悔。私の左肩に座っている悪魔は「一歩、踏  
み出さない。」と大声で叫んだ。アルコール  
依存症の父親の殴打の痛みを感じることは決  
してありません。あなたの貧しい人生は終わ  
ります。あなたが死ぬば、あなたの父はあな  
たに物を投げることはできません。あなたの  
死後に彼は自分の過ちを告白するかもしれま  
せん。もう一歩。

しかし、私の右肩に座っている神は静かに  
「いま、自分には、幸福も不幸もありません。  
だから、一度は過ぎて行きます。」と言いまし  
た。これは太宰治の本から引用したものです  
が、誰が神ですか、悪魔は誰でしょうが。

悪魔は私です。臆病者です。いつもより簡  
単な方法を追求し、怠惰を食べて、簡単に諦  
めます。私が悪いことをしようとするたびに、

悪魔はより強くなります。神も私です。その  
神は思慮深いですが、冒険的な方法を選び、  
通常は本を食べるように読みます。例えば、  
『坊ちゃん』は信頼でき、川端康成は神に芸  
術感覚を与えました。『砂の女』は人生の意味  
を明確にしていしましたが、芥川さんは人生が  
公正ではないことを認識させました。すべて  
の人はこのような神と悪魔を持っています。  
私が知っている唯一のことは、神自身と悪魔  
との戦いに勝つ人が自分自身で決められると  
いうことです。また、人は悪魔と神のどちら  
に餌を与えるかを決める必要があります。  
私は建物の屋上に立っていた。冷たい風、  
苦しみの涙、すべての恐怖。そして少しの後  
悔。しかし、現時点では、私は自殺をしよう  
とした悪い決断を後悔しています。冷たい風、  
喜びの涙。生きるための少しの動機づけ。